

看護師の援助的コミュニケーション — 実践編 —

(配布資料あり)

コミュニケーションには、情報共有を目的とした日常的コミュニケーションと、援助専門職者が用いる援助的コミュニケーションがあります。この援助的コミュニケーションは「相手の内面的成長を促す」ために用いられます。ここでいう内面とは「個人のこころ」のことで、「メンタル（心理的）なこころ」と「私的スピリチュアル（神氣的）なこころ」の二層に別けることができます。

メンタル（心理的）なこころ

＝ 自分の体外または自分の体内から発せられた情報に応じる刺激反応的こころ。
「認知」と「感情」で構成され、受動的な機能を担う。

私的スピリチュアル（神氣的）なこころ

＝ 自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する主体内発的こころ。
「意気」と「観念」で構成され、能動的な機能を担う。

「こころ」には、個人を超えた外在超越的な「包括的スピリチュアル（靈的）なこころ」もありますが、今回は取り上げません。

では、「内面的成長を促す」とは、どのような働きかけをいうのでしょうか。

上でみたとおり、内面への働きかけは、層別に考えることができます。

「メンタル（心理的）なこころ」の働きかけは、「相手の認知や感情に問いかけることで言動化を期待する」ということを意図しています。たとえば、「説明」や「指示」あるいは「確認」を与え受容してもらうことで相手の言語や行動を変化させることが可能です。多くのメンタルケア（心理的介入）はこの方策を基盤としています。しかし、メンタルケア（心理的介入）は直接的で即効性がある点については強みなのですが、相手は受け身的で刺激反応的に言動が変わったに過ぎません。要するに、相手の積極性・自発性が強化されない点は弱みだといえます。

一方、「私的スピリチュアル（神氣的）なこころ」への働きかけは、「相手の意気や観念に問いかけることで言動化を期待する」ということを意図しています。たとえば、**普段あまり意識しないような「話題」を投げかけ内省してもらうことで相手の言語や行動を変化させることが可能です。**私的スピリチュアルケア（神氣的希求）はこの方策を基盤としています。私的スピリチュアルケア（神氣的希求）によって能動的で主体内発的に言動が変化することが期待されますが、間接的で黙考を要するため即効性に欠けるといえます。

本研修会では、こころの層の相違・特徴をふまえ、実践的な援助的コミュニケーションについて考察したいと思います。